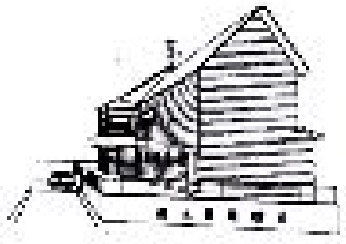
＜今朝の聖書から＞“海べで教えはじめられた”で始まる今朝の個所は、教会学校でもよく取り上げられる聖書の箇所になっています。イエス様は神の御旨をもって“業”を行われた方ですが、同じように、神の御旨をもって教えられました。そしてこの教えられるのは、弟子たちであり、私たちということになります。まず教えられることの重要性をみてみましょう。パソコンの使い方や手芸のようなものを習うのも、ある人は好きでしょう。教えて頂くというよりは、お金を払って教えてもらうといった方がいいかもしれません。Ⅱテモテ4：3には“耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め”という御言葉があります。時として、誰とも話さないで、だんだんと暗くなってゆく時があるのを経験したことはないですか。自ら成長することを拒否しているようです。教会全体がこうなってしまうことさえありそうです。つらそうに思えるからでしょう。ヘブル人への手紙12：11に“すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる”とあります。人は信仰においても、教育を受けることが必要なのです。主は惜しみなく私たちを訓練して下さいます。たとえ話もみなそうです。出し惜しみしているのでもなく、後の説教者の話しやすさの為にでもありません。そこには救いというエッセンスがあります。小さな子供たちに、この種のたとえ話がされるのを聞いて、ハッとする時があるのは、このたとえ話に真理があるからではないでしょうか。今朝の箇所につづく12節には“「彼らは見るには見るが、認めず、聞くには聞くが、悟らず、悔い改めてゆるされることがない」ためである”とあります。人は皆、発芽する等しい力を授かっているのに、“ましてや種以上のものであるあなた方は、何処で発芽しようかを選ぶことさえできるではないか”と指摘されているようです。“まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった（4節）”。多少は聖書を見たこともある、けれど、役に立ちそうでもない。自らに与えられた力を自ら踏みにじり無視している姿でしょう。悪しき魂が乗っ取ってしまうのです。“ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった（5節）”。熱狂し、まるで神のリバイバルが起きたかのように感激するが、数年もたたないうちに、彼の心自体に学び（主の教え）がないために下火になってしまった例を沢山知っています。闇の世（いばらの中）に生活し、あこがれのようにしか主の救いをみないことないでしょうか。

# 週　報

２０１０年　１月　３１日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を


日本フリーメソジスト
## 清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸


| | | |
|---|---|---|
| ユース礼拝 | 毎日曜日 | 午前　9：00 |
| 礼拝式 | 毎日曜日 | 午前 10：30 |
| | （聖餐式　第一日曜日） | |
| 夕礼拝式 | 毎日曜日 | 午後　7：00 |
| エステルの会 | 毎水曜日 | 午前 10：30 |
| 聖書研究祈祷会 | 毎水曜日 | 午後　7：00 |

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/


〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042